

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを聴き手に伝えようと、話す内容を整理して伝えたいことをまとめたり、身振り手振りを交えたりして意欲的に表現する児童が増えた。ペアやグループ、全体などどの形態でも臆することなく自分の意見を伝えようとする児童が多い。 作文では、段落分けや改行、句読点の打ち方などの基本的な原稿用紙の使い方が適切にできない児童がいる。 俳句や短歌の学習では、自分が経験したことを基に、言葉や絵を用いて表現している。 物語文では、情景描写や比喻表現から主人公の心情の変化を正確に読み取れるようになってきた。 説明文では、構成や使われている言葉から、筆者の主張や意図を捉え、自分の考えもまとめられるようになってきた。 文法や漢字の定着、語彙力に個人差がある。 読書に親しみ、様々な分野に関心を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間や外国語など、教科を横断して話す場面を設定する。その際、異学年の児童や中学生に聴いてもらい、聴き手に応じた話し方や伝え方ができるようにする。 話合いの目的に応じて人数を設定したり、役割を決めて行ったりして、話し合う機会を意図的に設定する。 原稿用紙の使い方を一斉や個別指導などで適宜確認する。 文を書いた後に、必ず推敲をさせる。目的や意図に照らして適切な構成や記述になっているか、内容や表現に一貫性があるかなどを、意識付けさせる。 四季に合わせ、俳句や短歌を作成させる。季節の言葉を大切にするとともに、限られた文字数の中で、表現を工夫できるようにする。皆で作品を見合うことで、良い表現に触れ、次の作品の参考となるようにする。 タブレットや国語辞典を活用し、多くの作品や表現、季語を知る時間を設ける。 定期的な漢字小テスト、学期の中間と期末に行う漢字テストを行い、漢字の理解について随時把握すると共に、児童に漢字の理解を定着させていく。 タブレットや辞書を活用する習慣を身に付けさせ、分からない言葉については、積極的に調べるよう意識付けさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場に応じて表現方法を選択していた。また、相手を意識して資料を作成したり、言葉遣いに注意を払ったりすることができた。 ○話合いの人数や形態を意図的に設定することで、児童は自分の役割やねらいを考えながら話合いに参加することができた。 ○短歌・俳句作りは、多くの季節の言葉に触れる機会となった。 ○辞書やインターネットを活用し、適切な漢字を選択したり、意味を調べたりして、語彙を増やすことにつながった児童もいた。 △場面や話題転換の改行、原稿用紙の使い方、文末の統一などに課題が見られる児童がいる。適宜個別指導を重ねた。 △漢字に取り組む姿勢に個人差がある。自分に合った練習方法や練習量を自分で見付けることが課題である。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことや資料から疑問や気付きをもち、意欲的に学習問題をつくることができている。 政治や歴史が自分の生活と関わっていることに気付き、ニュースや選挙、世界遺産などに関心を高めている。 課題に応じた資料を選択し、必要な情報を正確に読み取ることができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、意欲が持続するよう、すぐには解決しない学習問題を設定したり、児童の興味・関心を揺さぶるような資料の提示をしたりする。 朝の会や帰りの会でニュースを取り上げ、社会情勢への興味関心や自分の考えをもてるようにする。 資料を選択した理由や、資料から分かることを問い、資料を読み取る力を付けさせていく。 タブレットを活用して、必要な資料を調べたり、比較させたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を精選したり提示の仕方を工夫したりすることで、児童の興味・関心を引き付け、児童は終始意欲的に学習に取り組むことができた。 ○社会情勢に目を向け、自分の考えをもてるようになった児童が増えた。 △複数の資料から大切なことを読み取ったり、時代背景と関連させたりしながら深い読み取り・考察をする児童がいる一方、数値を正しく読み取れなかったり、適切な考察をすることが難しい児童もいた。

算数	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容を生かして課題解決を図ることができ、複数の考え方で答えを導き出せるよう努めている児童が多い。 分数同士のわり算では、被除数と除数の区別・判断をし、立式することを苦手としている児童が多い。同様に比の学習では、文章の中から基にする数量を見付けられない児童もいる。 既習の通分や約分に課題が見られる。 コンパスや分度器を正確に扱えない児童がいる。作図に時間がかかってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達がかいた式や図から、考え方を説明する機会を意図的に設ける。 答えの見通しがもてるよう、自力解決の前に見通しをもたせる時間を設ける。その際、答えの見通し、解決方法の見通しを意識させ、問題によって使い分けができるようにさせていく。 定期的な算数小テストや東京ベーシックドリルや宿題で問題に取り組み、解法を身に付けられるようにする。見直しをする習慣を付けられるよう指導をしていく。 教科を横断して算数的活動を意図的に取り入れ、日常生活の中で活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図や式から友達の考え方を説明する機会を意図的に設けたことで、自分にはない考え方に気付いたり、分かりやすく説明するための表現力が高まったりした。 △速さ、人口密度、単位量あたりの大きさの内容理解は十分と言えない。 ○他教科でもグラフを作成したり活用して発表したりするなどして、様々な場面で触れる機会を設けた。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項と関連させながら自分の考えや関心を深めている児童が多く見られる。また、実験や観察に意欲的に取り組む児童も多い。 事象から疑問を見だし、疑問の答えの予想や解決するための実験方法を考えている。考察内容がより明確になったり、深まったりするとよい。 実験器具を正しく扱えない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものや興味関心を引きそうな事象から課題を見付けられるよう、引き続き教材開発を行う。 予想・仮説をしっかりと立て、それを確かめるための実験方法を複数考えられるようにする。 実体験できない内容などは、映像資料や調べ学習を通して理解を深められるようにする。 実験前に、器具の正しい使い方を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な例や児童の疑問を基に学習を進めたことで、児童の意欲が終始切れることなく取り組んでいた。 ○課題に対する自分の予想やそれを確かめるための手立て、実験方法、考察などを考えることを重ねてきたので、これらの活動がスムーズにできるようになった。 ○理科支援員と連携しながら、実験内容や授業の構成を練ってきたので、児童の実態に即した学習を展開することができた。正しく安全に器具を扱うことができた。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> やわらかく丁寧に歌うことができる。それを生かしながら、強弱やフレーズなどをより積極性に表現していく必要がある。 音の長さや音色がもたらす曲の感じなど、曲の特徴や構成を理解することができる。 互いの音を聴き合いながら丁寧に演奏することができる。楽譜やリズムを理解し演奏に生かすことは、分かりやすい指導や必要に応じた支援で変容が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧に声の出し方を大切にしながら、豊かに響かせる部分に自信がもてるよう、その部分だけを取り出して歌い方を確認したり聴き合ってよさを伝え合ったりする。 鑑賞教材で理解できた曲の特徴や構成を、歌唱や器楽合奏の学習に繋げられるように旋律を聴いたり楽譜から見付けたりする時間を設ける。 旋律、伴奏、副次的な旋律などを理解し、役割に応じた大きさのバランスの工夫を今後も意識付けられるようにする。一緒に演奏することから始めたり、教え合う場面を設けたりして楽譜を理解しながら演奏できるよう、それぞれに必要な支援を続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○丁寧に表現し続け、歌声の響きを増すことができた。 ○学習する部分を明確にし、その部分を少人数で歌う時間を設けることで、一人一人の表現に積極性が増し、のびやかでやわらかい歌声になった。 ○曲の特徴や歌詞の内容をよく理解し、思いをもって表現しようとする姿勢が多く見られるようになった。 ○曲の中でのパートの役割をよく理解し、お互いの音を聴き合って演奏に生かそうとしている様子が見受けられた。

			△音楽や楽譜から理解したり感じ取ったりしたことがあっても、表出に時間がかかる場合も少しある。声や音だけでなく、プリントの記述内容、発言、表情など、さまざまな角度から児童の理解や想いを見取り、学びを深める発問などを工夫する必要がある。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・描画力に優れているが、造形が苦手な児童が多い。 ・自分の感覚を通して考え、表現することが少ない。 ・固定概念から脱却することが難しく、表現が狭くなってしまっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動に親しむ時間をできるだけ多く設定し、立体物の造形力を養う。 ・造形遊びなどの体験的な学びを通して自分のイメージがもてるようにする。 ・鑑賞などの時間を使って、友達の作品だけでなく世界の絵画や造形物を紹介することで、表現の自由さに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○見本を多く見せたり、児童の作品例を共有したりすることで、意欲的に造形活動に取り組むことができた。 △自身の経験や感情を表現することが難しい児童が見られた。自由な造形活動の経験を積ませ、イメージをもたせたい。 ○個性的な表現方法が多く見られるようになった。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の生活を改めて振り返って課題を見付け、改善しようとしている。 ・話し合いを通じて互いの考えを知ることで、新たな課題を見いだす姿が見られた。 ・調理方法や手順を自分たちで調べ、調理に関心をもつ姿が見られた。 ・実習を通して、目的をもって取り組み、自分の課題を見付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業前後に、家族の一員としてできることなどを計画・振り返る時間を設け、自分自身の生活を振り返らせる。 ・家庭と連携しながら学習を行い、実生活と学習が結びつくようにする。 ・2学期以降、調理実習を行う予定なので、安全に十分に気を付け、実感を伴った理解ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○裁縫や調理実習では、安全に気を付け、目的意識をもって活動に取り組む姿が見られた。また、生活に役立てようとする様子も見られた。 △家庭との連携に関しては、個人差が見られた。具体的に協力をお願いを呼び掛けていきたい。 △タブレットを効果的に活用して、調べたことや自分の考えをまとめることができた児童も多かったが、ばらつきが見られた。見本を示し、目的に合わせてまとめ方を考えやすくしていく必要があった。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に親しみをもって取り組んでいる児童が多い一方で、取り組みの姿勢や技能に個人差も見られる。 ・自分や友達の課題やよさを具体的に捉えることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで活動内容や実施方法に制限があったので、意欲や体力、技能の個人差が広がっている。活動の場やルールなどを皆で話し合ったり工夫したりして、まずは活動量や楽しいと思える経験を増やす。 ・タブレットを活用し、手本動画を参考にしたり自分の動きを運動後に振り返ったりすることで、自分の技や動きの向上につなげる。 ・学習カードや体育ノートを活用し、児童一人一人が自分 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の場やルールを児童と相談し、実態に即して工夫を重ねてきたことで、積極的に活動に取り組む児童が多かった。活動中も自分のめあてに向かって、試行錯誤しながら練習に取り組む姿が見られた。 △技や動きに個人差が見られる。タブレットで手本動画を見たり自分の動

		<p>のめあての振り返りや友達のをさを具体的に記録し、皆で共有し、次時に生かす。</p>	<p>きを撮影したりして、視覚的にも分かるように手立てを取ったが、体の動かし方や力の入れ具合など、細かい所まで伝わりにくい学習もあった。</p> <p>○学習カードや体育ノートを書くことで、自分の振り返りや友達の良さに気づき、次の学習に生かすことができた。</p>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 英語の学習に苦手意識をもっている児童がいる。 前に立ってスピーチを行う活動に慣れ、意欲的に表現を工夫しようとする児童が多い。 友達やALTと楽しみながらコミュニケーションを図ろうとする児童が多い。日本語と英語表現についての理解も高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語の学習を楽しむことができるよう、課題提示の仕方や展開の仕方を工夫する。 アクティビティの開発を心掛け、ALT、講師と協力し合うようにする。 抵抗感をなくして自信をもたせるために、書く活動を積極的に取り入れ、指導する。 互いの「よさ」を認め合えるよう、お互いに称賛させる機会を多く設け、そのような言葉掛けを指導する。 発表の形態を個人・ペア・グループと多様化し、互いに学び合える場を設定する。 	<p>○文字を書くことにも慣れ、文章を書くのが速くなった。</p> <p>△一方で、書くことへの苦手意識が強い児童も少なくはない。</p> <p>○ALTが開発したアクティビティに児童が意欲的に取り組み、簡単な英語表現に親しむことができた。</p> <p>○グループ、ペア、個人など様々な形でスピーチを行ったことで、ジェスチャーなどの表現方法が増え、印象に残る発表を行うことができた。</p>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 教材によって、考えが深まらなかったり、興味関心が薄れてしまったりする傾向がある。 他者の考えを受け止め、自分の考えを深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が身近に感じることのできるような教材を提示、開発していく。 児童への「ゆさぶり」を積極的に取り入れ、自分事として話し合いが行われる授業展開にしていく。 自分の考えをもつとともに、さらに多面的・多角的な考えに触れられるように意見共有を行い、話し合う活動を充実させる。 	<p>○児童の共感を得られるような教材や議論を交わしたくなるような発問を提示したことで、自らの経験や考えを基に話し合いをしたりノートに書いたりして考えを深めていた。</p> <p>○児童への「ゆさぶり」を積極的に取り入れたことで、自分の意見を考え直したり、深めたりすることにつながった。</p> <p>△教材によっては話し合いが活発にならなかったり、考えが深まらなかったりするものもあったので、より深い教材研究が必要である。</p>
総合	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見付け、調べ進めていこうとする態度を育成する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 児童や社会の実態を考慮し、児童の「調べたい」という意欲を高めることができるテーマを設定する。 調べたことを共有し、他者と協働しながら課題を解決しようとする学習活動を充実させる。 	<p>○発表のモデルを提示したり、児童の興味・関心が持続するようなテーマを設定したりしたことで、見通しをもって意欲的に取り組むことができ</p>

	<p>・学習したことを、自分の将来に役立たせようとする態度を育成する必要がある。</p>	<p>・「自らの人生に生かす」という視点をもつことができるようワークシートを工夫する。また、学んだことを今後の自分や社会と関連付けてまとめを行う。</p>	<p>た。 ○友達と調べ方やまとめ方をアドバイスし合いながら、発表資料や発表の仕方を高めることができた。 △発表の際、工夫にこだわるあまり、聞き手への意識が薄れてしまう児童が見られた。発表の仕方の更なる指導が必要である。</p>
--	--	---	--